

高田短期大学通信

TAKADA JUNIOR COLLEGE

2007年(平成19年)7月5日 発行 高田短期大学・編集 図書委員会 第42号

思いやりを育む 人との絆

学長 村澤 忠司



新緑に囲まれた学園に、心地よい緊張感が感じられる季節となりました。新入生も本学に慣れ、新しい友も得て、個性のある学園生活を始める様子が見受けられます。一方では、二年生は就職のために進路課で真剣に資料を検索したり、ゼミの指導教員に相談している姿をよく目にします。

本学の建学の精神は、人間性豊かな社会人を育成することにあります。専門的知識や技能を修得することを通して、心豊かに思いやりのある人材の育成を目標としています。中国の賢人孔子の言葉に「夫れ仁者は己れ立たんと欲して人を立て、己れ達せんと欲して人を達す」(「論語」雍也篇)とあります。社会で生き、活躍するには自己中心的であってはならず、他者への思いやりが必要と言っています。

この教育理念の実現こそが本学が皆さんに期待することです。

さて、現在は、各種ハイテクなメディアでネットワークを構成する情報化社会です。しかし、社会に飛び立つ準備期間として、ローテクと言われる読む・書く・語る力を身につけることが基本として重要なことです。そのためには、まず、読書することこそ思想の泉となり、人生の源ともなります。様々な書物に接することにより未知の世界を知り、先人の知恵を身につけることができます。次に、友人を得ることです。お互いが信じ合っ、励まし合える友を作り、一段と成長することを願っています。

今日のユビキタス社会では世界の人々が、いつでも、どこでも、誰とでもコミュニケーションができ、必要ならば、瞬時に外向くこともできます。人々は学問、スポーツ、芸術、産業等を通して交流し、共同・協調の精神を持って作業することが一層求められます。皆さんが、NPOで活躍することや実習で地域の人々との協働の作業に参加すること等は地域の活力の源となり、地域社会を支える人材として、また、社会から求められる人間として成長していく上で重要なことです。この意味でも皆さんにとって、ローテクな方

法での人間の絆の構築が人間形成に最も大切だと思います。本学で得られる智慧をもとに

学生自治会

こんにちは。今年の執行部十人です。よろしく願いします。

私たちは毎週、各学科のリーダーたちと一緒に、学校生活がより良いものになるよう、みんなで見解を寄せ合って会議を行っています。

私たち執行部は、TJC祭から始まり、一番大きなイベントである高短祭に向けて、少しずつ準備を始めています。大変な事も沢山待っていると思いますが、十二人の力を合わせて、みなさんの二年間という短い学生生活の、大切な思い出づくりのサポートを目指して、今日も頑張っています。

ここで、私たち執行部が活動している内容を紹介します。

① 学生自治会の年間業務の企画・予算

② 「高短祭」の計画・実施

③ 卒業アルバム編集

④ 謝恩会の企画・実施

⑤ クラブ部長会議・学生大会・自治委員会の開催

⑥ 「セーフティたかだ」での地域の安全活動

自信と誇りを持ち、しっかりとした目的意識を持って有意義に過ごすことを期待しています。

⑦ TJC祭の企画・実施などです。

学生生活の一大イベントは、「高短祭」です。私たち学生は年に一度のお祭りの大学祭も今年で四十二回を迎え、十月二十七日(土)・二十八日(日)とすでに開催が決まっています。昨年までの良かった点、悪かった点を踏まえ、模擬店・展示・イベント・各クラブ活動・同好会の催し物・学生全員で楽しめるビンゴ大会も考えています。高短祭はみなさんの協力があるからこそできるものです。みなさんにも期待しています。そして当日は、先生方も含め全員参加で、地域のみなさんとも一緒に盛り上げ、楽しみましょう。



平成19年度 学生自治会メンバー

子ども 学科コーナー

保育のスペシャリスト

養成をめざして



学科長

豊田 和子

私は育児文化研究センター長を経て、二年ぶりに再び学科長を拝命することになりました。学科の先生方と力を合わせて、子ども学科が一層発展していくように頑張りたい所存ですので、宜しく願い申し上げます。

★子ども学科の完成年度

平成十八年度に「幼児教育学科」が「子ども学科」と科名変更して新しいスタートを切りましたが、早いもので本年がその完成年度となります。「子ども学科」という名称によって私たちに課された教育課題は、今までの「幼児教育学科」時代に築いてきた「幼児教育の専門家養成」の基盤を広げて、①乳児期から学童期までの子どもを対象とした保育のスペシャリストを養成していくこと、②社会の変貌とともに要請されている子ども福祉に対応できる人材養成をめざすことです。子ども学科には、幼児教育コースと子ども福祉コースという二つのコースが

あり、それぞれのコースの特色を生かした教育をして、社会から評価される人材を送り出すことが任務です。「高田でなければ……」と言われる保育者を送り出せるよう邁進して参ります。

★「夢と笑いのある学びの場」

本学科では平成十六年度から「夢と笑いのある学びの場」というスローガンを掲げて、保育者を志願する学生の皆さんに、まず目標を自覚し常に夢をもつて、そしてたとえ二年間の学習が苦しくとも心底には強い笑いを醸成できるような学びの場にしたいという念願を抱いて全教員が日々の教育に励んでいます。子どもの教育の世界には「あこがれ」の心を培うことが大事です。そして、幼い子どもにいつも笑いの輪を創り出せる、そういう保育者に育ってほしい。そのためには、自らが夢を抱き前進していく姿勢、笑いを生み出す心とさまざまな遊びの技術が必要です。たくさん学習は究極的には「夢と笑い」に集約されるはずです。学生の皆さん、どうか「夢と笑い」を高田短大で大切に育んでください。

★幅広い保育実践力の育成

今、保育の世界では「教育＋福祉＝保育」という概念での保育実践力が求められています。子ども理解、子どもへの教育力、そして子どもの幸せを守る家族

支援・地域支援力といった幅広い保育力をもった保育者をどうやって養成できるかが、各養成校に問われているのです。本学では、育児文化研究センターと連携・協力しながら学生に「子育て支援力」を体験的に学ぶ機会を広げていけるのではないかと

研究余滴

少子化を考える

植木 存

わが国は、一九七〇年代の半ば以降、出生数・合計特殊出生率ともに減少・低下を続けている。特に合計特殊出生率は二〇〇一年から五年連続で過去最低を更新し、二〇〇五年には一・二五に達し、今やわが国は先進諸国の中で少子化が進んだ国の一つに数えられている。政府による少子化問題の検討は、一九八九年の合計特殊出生率、いわゆる「一・五七ショック」がきっかけとなつている。以来、政府が打ち出すさまざまな少子化対策にもかかわらず少子化の進行は長期化の様相を深めている。少子化の著しい進行が一般的に社会問題として取り上げられるのは、①若年労働力の減少・労働力の低下、②

と考えています。これを「子育て応援隊」と呼ぶことにします。
★中部ブロックセミナー幹事校
平成十九年度は本学が、全国保育士養成協議会中部ブロックセミナーの主幹校になります。
十二月七日・八日の二日間、中部地区の保育士養成校四十七校

家族・社会の扶養負担能力の弱体化と社会保障財源への圧迫、③高齢化の一層の促進、高齢者問題の増大、人口の減少、④子ども数の激減による学校存立の危機などが挙げられているが、国力や経済力を優先した人口問題対策としての少子化対策では出生率の上昇が目標となり、問題を解決へと導くことは困難である。

一体なぜこのような状況になつてきたのだろうか。今、この社会には、生活・健康・生命・安全を脅かす深刻な状況が広がっている。相次ぐ労働法制の「改正」がワークルールを歪め雇用の不安定化・長時間労働や所得の低下を一層促進し、社会保障制度の度重なる「改正」が実質的保障機能の後退を急速に進めている。所得格差の拡大・膨大な低所得層、自殺・犯罪の増加、子どもや高齢者への虐待など、社会の荒廃化現象も広がりを見せ、子どもを産み育てていく経

が一同に会して、保育士養成課題や養成実践を議論する貴重な場です。子ども学科の全教員の団結によって、有意義なセミナーができるよう願っています。



済的基盤・社会的条件を著しく悪化させ家族生活を脅かしている。若者は雇用の不安定化と所得の著しい低下などによって将来や結婚に対する見通しが立ちにくい不安な現実に置かれている。このようにみえてくると、子ども数の減少・出生率の低下は、競争社会の歪みを激化・深刻化させている社会の状況と決して無縁ではない。家族政策・労働政策を軸にした子育て支援施策によって少子化を乗り越える成果を着実に上げてきたEU諸国のとりくみから学ぶことは実に多い。安心して子どもを産み育て、家族生活が営みやすい子育て支援施策の充実が切実な願いである。身近なところで子育てを支え合い助け合う住民主体の地域づくりの推進とともに、「子育て支援施策」の拡充を求めていることが必要である。

人間介護福祉 学科コーナー

学科の二年目を迎えて



学科長

千草 篤磨

人間介護福祉学科が始まって、あっという間に一年が過ぎてしまいました。学生はもちろんのこと、教員も慣れない事ばかりで、右往左往しながら、ただ走り続けてきた一年でした。そこで、このコーナーを機に、学科の一年間を振り返ってみたいと思います。

本学科は介護福祉士の養成を主に、介護学、看護学の教員と共に、社会福祉学や法律学、心理学、家政学など関連諸領域の専任教員を配置して、幅広く人間福祉を追求する事を目的として開設されました。その性格上、実技系科目が多くなりますが、実技や実習に片寄らない教育課程で授業を行ってきました。

その中心になるのが「人間福祉基礎演習」です。1年生を三つのゼミに分けて演習を進めました。大学生になり、高校までとは違う雰囲気では授業を受ける事を実感するのは、この基礎演習です。本を読むこと、文章を

書くこと、課題を調べることで、発表することなどを、少人数のゼミ仲間と担当教員とが楽しく、急がず、各自の興味に合わせて学んでいくものです。最後には各ゼミ合同で発表会を行い、全員が研究成果を報告しました。

次に、中心となる授業が「介護実習」です。八月に二週間、二・三月に四週間、特別養護老人ホームや重症心身障害児施設にて実習を行いました。実際の福祉現場を体験することで、改めて学ぶ意義や目的を確認し、次の実習に向けて課題を追求していくこととなります。「実習Ⅰ」では、初めての实習に緊張している姿がどの施設でも見受けられました。「実習Ⅱ」では、定期的なこともあり、インフルエンザや風邪などで休んだ学生が何人もあり、日常の健康管理の重要性を認識したようでした。もう一つ重視したのは、外部の講師による「特別授業」です。福祉現場の生の話を聞くことはとても大切なことです。昨年は三重県社会福祉協議会の職員や「認知症の人と家族の会」代表アロマセラピの心理療法士による授業を受け、好評でした。その他、「高田短期大学人間介護福祉学科年報」創刊号を発刊することができました。これは、二年目に出す予定をしてい

たのですが、私立大学教育研究高度化推進特別補助による補助金を受けることになったため、発刊を早めたものです。専任教員はじめ、非常勤講師や実習施設の指導者、そして学生原稿によって、まとめられました。よくぞ短期間に完成したものだ

研究余滴

地域福祉分野に おける福祉教育

佐藤 完

研究テーマは、地域福祉分野における福祉教育である。今日、介護福祉士養成が高校福祉科でも行われている。県によって保育科、衛生看護学科の代替教科として学科改変し誕生した経緯がある。衛生看護科も保育科もそれぞれの社会情勢の中で生まれた教科であり学科である。新教科「福祉」は、21世紀に向けて新設され、その意図は単に安易な人材養成ではないと考えている。

新教科「福祉」が誕生するまでの渦中の中で見聞すると高校生が「福祉」の学びの中から今日の彼等や彼女達の福祉課題に深くかわる生活課題を解き解しているとも考

と、今更ながら驚いています。さて、昨年度は文部科学省より、設置認可にあたっての留意事項として、「社会福祉概論」の専任教員を置くことが宿題とされていました。この分野の人材を確保することは、他大学でも大変苦労されているところで

えられる。1987年鹿児島県にある私立鹿児島城西高校が4月学科開設した。その後、「福祉科」に類する学科が全国の高等学校に立ち上がり当初は、1県1校程度の時代から今日では1県5校前後まで設立されている。

高校福祉科は、私学を中心に展開され、今のような検定教科書もなく専門学校が使用する養成テキストを使用していた。文科省の分類からいけばその他の学科であった。新教科「福祉」は、高校福祉科教員の実践の中から教員が望み創出した背景を持つているのである。教科「情報」に見られる経緯とはその趣が異なっている。

社会福祉に係わる科目であるので単に専門的知識・技術論では解決できない科目であるとか考えている。単に高校福祉科だけの問題ではなく社会福祉士、介護福祉士養成校の問題でもある。よって厚生労働省は養成研

す。幸い、各方面のご協力を得て、昨年度末ぎりぎりではありましたが、文部科学省の教員審査を経て、佐藤完先生をお迎えすることができました。今年度は第一期生の卒業です。更に気を引き締めて、本学科の運営に努めていく所存です。

修の見直しが進められ近く具体化する。

本学は、浄土真宗を母体にする。社会福祉史の中では仏教を中核とした社会福祉実践は決して多く見受けられない。地域福祉の視点から改めてその実践を見直してみたいと考える。見られないのではなく表に出ないということであるかもしれない。仏教福祉における地域福祉実践のありようも早々に本学教員の織田先生のお力もお借りしながら共同研究の準備も進めさせて頂いているところである。本年度は、高校福祉科に係わるテーマと仏教福祉における地域福祉実践の基礎研究をテーマとし展開してゆきたいと考えている。



オフィス情報学科 コーナー

時代とともに変化してきた
オフィス情報学科



学科長
大西 眞純

オフィス情報学科は、昭和59年に教養科として開設され平成5年に教養学科、平成13年に今のオフィス情報学科へと改組され、開設以来今年で24年目になります。

開設当初は教養を高めることを教育の目的としていましたが、その後の景気拡大や大学進学者の増大により多くの大学が臨時定員増をする中、本学科も大幅に入学定員を増やし、地域で働く人材の育成に力を注いできました。そして、バブル経済の崩壊とともに氷河期と呼ばれる就職の低迷の時期にも、秘書・会計・情報・医療事務などの資格取得を中心とした個性を伸ばす教育を進め、企業等で活躍できる人材の養成を進めてきました。再び就職売り手市場と呼ばれる時代となった今日、単に資格を取得するばかりではなく、学生一人ひとりの生涯についてどのように目標を持ち、それを支える知識や経験・技術をどのよう

に身につけていくのかを考え、実現して、卒業後の就職だけでなく生涯を通じて総合的なキャリア教育へと充実しています。オフィス情報学科は、時代の変化とともに、学生にとって何がベストかを常に考えながら変化してきたといえます。

オフィス情報学科の新しい科目
昨年、高校の先生方のご意見を聞かせていただき、高大連携教育も視野に置きながらカリキュラムの見直しを行い、今年の新入生から新しいカリキュラムで授業を受けています。

新しい科目の一つに「ビジネスリテラシー演習」という科目があります。この科目は、授業の内容も進め方もユニークで、従来の科目のように一人の先生が担当するのではなく、6名の教員が協力しながら担当します。この科目の内容は、いくつかの部分に分かれています。最初は、小・中・高校の時代を通して、自分はどういう人だったか見つめながら、自分のよいところそうでないところを書き表し、自分と周囲との関係についても図に描きながら考えていきます。これに、短大の時代を加え、自己PRをうまくできるようなふうとするものです。二つ目は、新聞にはどのような記事がどこにどのように書かれて

いるか実際に新聞を読み、コメントを加えて発表するものです。漠然と新聞を読むのではなく、はっきりと目的を持って読み、社会の出来事を理解していく力になるでしょう。もう一つは、本を読み、その本の言葉を使って文章を作って文字に親しみ表

研究余滴

英語学習のための デジタルとアナログ の融合

畠山 義啓

長年、大学での英語教育に携わってきた、授業開講パターンが学生の英語学習にふさわしくないと考えています。語学学習は1日どれだけの時間を費やすことができるのか、そしてそれを毎日継続することができるのかということがとても大切なことです。そこで、着目したのがCALL (Computer Assisted Language Learning) の分野です。英語の授業は1週間に1度であるが、インターネットを活用して学習者がオンデマンドで学習することができるようサイトを作成することができれば、大学における語学教育のウィークポイントを克服することができ

現することに慣れることを目的にしています。このほかにグループで協力しながら一つの課題に取り組むなど、自らを知り、社会を知り、表現する内容となっています。これらを一方的な講義ではなく、ともに考え、指導を受けながら実際にやってみ

ると考えたからです。そのひとつの成果が高田短大英語学習サイト(<http://www.takada-jac.ac.jp/english-center/>)です。このサイトのトップページでは、スーパーマーケットへ取材に行き、食材に関する英語を紹介しています。また、Australia Tourの「ビデオで英語」という項目では、学生の皆さんが生のおーストラリア英語を体感できるようなオーストラリアで取材したビデオを編集して発信しています。そしてまた、インターネットは英語学習のための教材の宝庫です。どのようなサイトをどのよう

に活用できるのかということについても研究を行っています。この内容は高田短期大学紀要に発表していますので興味のある方は参考にいただければ幸いです。

そして、今後の課題としては英語学習のためのデジタルとアナログの融合ということです。これはデジタルの世界にだけ頼り切っていると読み書きができなくなってしまうという問題点をいかに克服していくかということです。あくまでもデジタルの世界は道具としてとらえ、人間という超アナログ的な存在が言語というこれもまた超アナログ的なものを習得するにはアナログ的な学習を欠かすことができないでしょう。日本の英語学習者の問題は、絶対的な読書量の不足だといわれています。そこで注目しているのが英語のレベルに応じて文法と単語数が限定されている Graded Readers の存在です。図書館の2階には Oxford Bookworms が Level 0 から Level 6 まで数多く入れていますから読んでみてください。これらの図書とインターネットによる読書支援ができれば興味深いことだと考えています。

仏教文化 研究センター

センター長 栗原 廣海

仏教文化研究センター主催で
次の公演が行われます。

日時 平成二十一年九月(予定)

会場 国立劇場「大劇場」

内容 仏教文化・伝統芸術とし
ての「高田声明」公演

また、右の公演に先行して、
本センター主催で次の公演が行
われます。

日時 平成十九年十月十二日

(金) 午後一時三十分～

三時(開場午後一時)

会場 三重県総合文化センター

大ホール

内容 国立劇場公演に同じ

入場料は千円(前売り九百円)
を予定しています。多数のご来
場をお待ちしています。

ところで「声明」とは、宮・
商・角・徴・羽(西洋音楽のレ・
ミ・ソ・ラ・シ)の五つの音階

が三オクターブの幅の中で構成
され、歌うように唱えるお経の
ことです。その音声の美しさは
聞く人の心にしみわたります。

日本の歌曲の原点として、

「今様」「平家琵琶」「謡曲」

「浄瑠璃」「小唄」「長唄」

「浪花節」「民謡」「演歌」等

の中にも生きていると言われて
います。

育児文化 研究センター

センター長 梶 美保

育児文化研究センターは開設
され2年半となります。育児・

児童文化研究に加え、地域社会
への貢献・連携・子育て支援と
幅広く活動を行い県内に広くそ
の存在が定着してきた感があり
ます。この地域・行政の期待と
信頼が高まっているこの時期に

育児文化研究センター長に就任
したということに責任の重大さ
を感じています。

平成19年度は、定例事業であ
る出前講座・定例研究会、紀要

着任・退任のみなさん

早春の新しい
出会いの中で

佐藤 完



4月より「社会福祉概論」を
担当することになりました。

介護福祉学科に「人間」を付
けられた事に関心を抱いて赴任
しました。高田短期大学、そこ
に学ぶ学生、地域住民の方々と

のトライアングルの関係の中で
高齢社会を豊かに生きる地域社
会へ礎を創ることに役立てれば
幸いです。

まずは
自分作りから

橋本 景子



四月より子ども学科に着任し、
カウンセリング関係の科目と実
践を担当しています。専門は臨
床心理学でカウンセリングです。

大人が変われば必ず子どもは
変わります。しかし他人を変え
ることは難しいので、自分が他
人に接する方法を変えるのです。

学生には、どんな大人にも対
処できる自分作りをしつかりし
ていつて欲しいと願っています。
どうぞよろしくお願い致します。

新任に当って

生桑 崇



4月から総務課で勤めさせて
いただくことになりました生桑
と申します。

昨年度まで高田本山の十萬人
講財団に勤めており、環境が大
きく変わって皆さんにご迷惑ば
かりかけておりますけど、一日
でも早く皆さんのお役に立てる
ようがんばりますのでよろしく
お願い致します。

ちよつと進路課へ

北畠都和子



昨年の夏から進路課にお世話
になっております。

若い元気な学生の皆さんと緑
の木々に囲まれ、楽しく仕事を
させていただいております。

「ちよつと進路課へ」と誰で
も気軽に相談に来ていただけ
るそして希望を持って新しい生活
(職場)へと進まれることの、少
しでもお手伝いできたかと思っ
ております。どうぞよろしくお
願いいたします。(H18.7着任)

「育児文化研究」、IKUBUN
NEWSに加えて、本年は「子ど
もの夢を育むプロジェクト事
業」としてマタニティ・乳児・
幼児・学童及びそれらの育児・
教育に携わる人たちを対象に、
子どもの「夢」を育み、子育てを
する人たちに愛と勇気とともに
育ち合えるような機会を提供す
るような各種イベントを10分野
19事業実施します。また「子育
て応援隊」を登録制として地域
の要請に応え活動していくこと
ができるよう取り組んでいると
ころです。

今後、ますます地域の人に活
用されるセンターでありたいと
願っています。

平成19年度
新入生宿泊研修

学務委員長 真弓 徳光



4月24日(火)・25(水)の二日間、白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で新入生宿泊研修が行われました。当初心配された天候も曇天ながら、研修には良いコンディションの中で、学長の講話後、学科共通のパターゴルフや学科別の研修が行われました。子ども学科では、1日目は「すてきな保育者になるために」と題し、1年生担当教員がそれぞれの専門分野を生かしたミニ講座を開きました。仏教説話紙芝居、リズム体操、子育てに関するお話、歌あそび、絵本の読み聞かせ、竹とんぼづくり、と

バラエティに富んだ内容で、学生たちも童心に返り楽しんで参加していました。2日目は毎年恒例となっている「つくって・あそんで・みせて」です。子どもの歌に合わせて創作ダンスと衣装づくりを行い最後に皆の前で発表します。今年も友達と力合わせて一生懸命取り組む姿が見られ、保育者に向けての第一歩としてたいへん貴重な体験ができました。

人間介護福祉学科では、1日目に学科別研修を行いました。武川先生の「みんなで考えるバリアフリー」では、普段はあまり発言しないという学生も意見が言いやすく楽しかったという声もあり、にぎやかな意見交換のできる研修になりました。また、後半、織田先生の「介護を体験しよう!」では、急遽ホテルの外階段に場所を変更して、「老人さん」「視覚障害者さん」を体験しました。実施後は、視覚障害者の方のたいへんさを実感し、老人さんの苦労も体で感じ、その中にも笑顔や言葉かけの絶えない明るい研修となりました。

オフィス情報学科では、アイズブレッキングとして「漢字ビンゴゲーム」からスタート、ゼミ別の対抗戦で大いに盛り上がりました。今後、みんなで楽しく漢字検定にチャレンジしたい

という声もありました。午後は「未来予想図」の作成。これは企業研修でも採用されている『マインドマップ』という手法を応用したマップ作成です。最初に個人別で自己紹介マップを

オーストラリア海外英語
研修に参加して

たくさんの出会いに感謝!

オフィス情報学科2年 大原 唯
このホームステイを経験し、私の中の英語に対する苦手意識が薄れ、難しいと感じていた英語をもっと学びたいと思えるようになりました。

私達がオーストラリアへ向かった時、現地はひどい水不足で「シャワーは3分間」「車をホースで洗車したら罰金」などというレベル4の警告が出されていました。食器はまとめて素早く洗う、毎日シャワーが使えない。：。当たり前のよう



作成し、それをもとにゼミ紹介マップを作成しました。途中、恒例となった「身体をほぐし集中力を高めるストレッチ体操」を行い、最後に完成したマップを掲示し学科全体で交流を深めました。私のホストファミリーは日本通で、休日には日本とオーストラリアの合同イベントに参加し、一緒に浴衣を着て楽しみました。折り紙で作った鶴やイースターラビットもとても喜んでくれました。この研修を通して異文化に触れることにより、日本の文化を知る事が出来ました。研修に参加しようか迷っている人には是非!是非!参加してもらいたいです。きっと帰国する頃には多くの発見と少し成長した自分に気づくことでしょう。この研修に参加することが出来たことをとても感謝しています。

自信を与えてくれた海外研修

子ども学科2年 伊藤 希

今回オーストラリア研修に参加し、私が一番印象に残った事は、オーストラリアの人々との交流です。海外へ行った事の無い私が、ホストファミリーと9日間も一緒に暮らすという事は、

ました。日頃少ない学生同士及び学生と教員とのコミュニケーションが醸成でき、新たな友達も多くなれる等、事故もなく有意義な研修でした。

不安でしかありませんでした。初めてファミリーに会った時は、英語も速すぎて聞き取れず、常に緊張して伝えたい事が上手く言えなかったのもとても大変でした。でも、ホストファミリーは私の下手な英語も時間をかけて聞き取ってくれたので、少しずつ不安もなくなり、英語にも慣れていきました。英語は完璧じゃなくても表情やジェスチャーで補えば伝えられるようになります。最後には冗談も言い合えるようになりました。学校にも一週間通いましたが、OGの学生はとても優しく、常に一緒に過ごしました。休み時間には一緒にいたり、バレーボールをしたりしました。すれ違う生徒も明るく挨拶してくれました。休日には他の家族とご飯を食べたり、たくさんの人々と交流ができて、言葉は違ってもふれ合えた事が、自分にとって大きな自信になりました。今回この研修に参加して、本当に良かったと思っています。もっと英語を勉強したいと思うようになりました。

卒業生からの メッセージ

①勤務先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

経験を生かして

平成16年卒 青 有香



①亀山愛児園②就職して4年目になりましたが、まだまだ未熟な部分もあり、上手くいかなかった時には自信をなくすこともあります。しかし、いつも子ども達のふとした暖かい言葉や表情に助けられています。③自分もいつか母親となり、子育てを楽しみたいです。④資格取得のための過密なカルキュラムの中でも、学生同士、又は、先生との交流も深く持てる場所であると思います。⑤学生時代は短いですが、様々なことに挑戦してほしいと思います。

様々な経験が、今後の自分に生かされると思います。頑張ってください。

充実した日々

平成16年卒 出口まどか



①伊勢市立保育所ゆりかご園②一人で歩けるようになったり、

苦手な食べ物を食べられるようになったりと、子どもたちの成長を間近で感じることができた時は、嬉しく思うと共に保育士になって本当によかったと感じます。③子どもたちと共に様々な経験、体験を通して、小さい頃憧れていた先生のように子どもや保護者から信頼される保育士になりたいと思っています。④楽しいことだけでなく辛いこともあった2年間でしたが、同じ目標を持つ友人と過ごした日々はとても充実していました。⑤様々なことを学び、経験して有意義な短大生活を送り、素敵な保育士、幼稚園教諭になってください。

私の宝モノ

平成14年卒 柴田 恵理



①株式会社御木本真珠島②観光施設という事から、たくさんのお客様との出会いがあり、またお客様の笑顔は大変励みになります。辛い事より苦労のほうが多くあり、お客様の中には耳や手足が不自由な方など、様々です。迅速に判断し、その場に合った的確な対応が出来るよう心



掛けています。③常に努力を惜しまず、誰からも頼られる存在になる事です。④学びと出会いの宝箱です。生涯役立つ知識が取得出来た事と友人・先生に出逢えた事は私自身、大きな自信へと繋がりました。⑤たった一つで構いません。自分出来る事や大切なモノを見つけてみて下さい。きっとその宝モノは大きな自信・希望・夢へと繋がると思います。

「これからは社会人として」

平成19年卒 芝山 千裕



①楽しいパソコン教室津・山の手校②パソコン教室でインストラクターの仕事をしています。勤め始めて間もない頃に、生徒さんの電話に出ると、声と話しかたで私のことを覚えて下さっていました。質問に対する私の答えを理解して頂いたり、インストラクターの一人として認められたことなどが嬉しい思い出です。③将来は、この教室をリーダーできるようにしたい。④生徒さんが間違われた理由を見抜く力が必要だと知り学生の頃よりも勉強する日々が続いています。⑤就職先の決定には自分が一番したい仕事が見つかれば頑張れるはずです。後悔のない大

学生生活を送ってください。

平成18年度における学校法人高田学苑の決算は次のとおりですので、当学苑寄附行為第40条の規定に基づき公告いたします。

公 告

貸借対照表 (平成19年3月31日)

(単位: 円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(7,712,593,638)	(7,448,453,958)	(264,139,680)	固定負債	(235,386,641)	(246,585,876)	(△) 11,199,235)
有形固定資産	(5,538,754,821)	(5,023,918,963)	(514,835,858)	退職給与引当金	235,386,641	246,585,876	△ 11,199,235
土地	310,500,677	310,500,677	0	流動負債	(493,125,279)	(706,862,910)	(△) 213,737,631)
建物	4,647,186,672	4,256,558,987	390,627,685	未払金	150,125,712	374,115,854	△ 223,990,142
構築物	92,260,226	98,051,536	△ 5,791,310	前受金	270,147,135	255,310,135	14,837,000
教育研究用機器備品	158,997,848	125,169,795	33,828,053	預り金	17,681,932	23,658,417	△ 5,976,485
その他の機器備品	5,174,825	6,226,225	△ 1,051,400	修学旅行費預り金	51,720,500	50,256,504	1,463,996
図書	188,201,095	197,492,265	△ 9,291,170	卒業諸費預り金	3,450,000	3,522,000	△ 72,000
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	負債の部合計	(728,511,920)	(953,448,786)	(△) 224,936,866)
建設仮勘定	106,514,000	0	106,514,000	基本金の部			
その他の固定資産	(2,173,838,817)	(2,424,534,995)	(△) 250,696,178)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
借地権	2,257,500	2,257,500	0	第1号 基本金	8,465,828,627	7,878,961,255	586,867,372
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	第2号 基本金	650,000,000	475,000,000	175,000,000
施設利用権	124,417	153,623	△ 29,206	第4号 基本金	150,000,000	150,000,000	0
有価証券	3,838,498	3,838,498	0	基本金の部合計	(9,265,828,627)	(8,503,961,255)	(△) 761,867,372)
差し入れ保証金	350,000	350,000	0	消費収支差額の部			
退職給与引当特定資産	258,490,000	258,490,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
施設設備拡充引当特定資産	940,130,000	1,122,877,500	△ 182,747,500	翌年度繰越消費支出超過額	△1,871,856,398	△1,179,832,001	△ 692,024,397
長期火災保険特定資産	313,724,500	384,278,180	△ 70,553,680	消費収支差額の部合計	(△1,871,856,398)	(△1,179,832,001)	(△) 692,024,397)
財政調整資金特定資産	650,000,000	650,000,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
長期前払金	3,637,922	1,003,714	2,634,208	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	(8,122,484,149)	(8,277,578,040)	(△) 155,093,891)
流動資産	(409,890,511)	(829,124,082)	(△) 419,233,571)				
現金預金	248,773,110	688,305,621	△ 439,532,511				
未収入金	105,946,901	85,989,677	19,957,224				
仮払金	0	1,036,120	△ 1,036,120				
修学旅行費預り資産	51,720,500	50,256,504	1,463,996				
卒業諸費預り資産	3,450,000	3,522,000	△ 72,000				
前払金	0	14,160	△ 14,160				
資産の部合計	(8,122,484,149)	(8,277,578,040)	(△) 155,093,891)				

就職先一覧

幼児教育学科 就職先

◆幼稚園（公立）

四日市市立塩浜幼稚園、朝日町立中央幼稚園、鈴鹿市立庄内幼稚園、津市立川合幼稚園、津市立白山幼稚園、松阪市立大石幼稚園、明和町立曙幼稚園

◆幼稚園（私立）

暁の星幼稚園、エンゼル幼稚園、大川学園、桔梗が丘幼稚園、さくら幼稚園、すずか幼稚園、聖ヤコブ幼稚園、高田幼稚園、佃幼稚園、津田学園、道伯幼稚園、みずきが丘道伯幼稚園、富田文化学園、羽津文化幼稚園、松阪乳幼稚園、龍宝幼稚園

◆保育園（公立）

四日市市立塩浜西保育園、鈴鹿市立一ノ宮保育園、菰野町立菰野保育園、菰野町立千種保育園、亀山市立関保

◆保育園（私立）

愛育保育園、石薬師保育園、いずみ保育園、上里保育園、大里保育園、片田保育園、カトリック保育園、上浜保育園、神戸保育園、岸田保育園、久保保育園、くまだ保育園、光陽保育園、さくら保育園、サン保育園、すぎのこ保育園、清泉愛育園、聖マリア保育園、泰水保育園、第二石薬師保育園、竹野の森こども園、高岡ほろりん保育園、高田保育園、津愛児園、つくし保育園、つ保育園、つぼみ保育園、野登ルンビニ保育園、野町保育園、ハートピア保育園、はなこま保育園、浜田保育園、ひかり保育園、久居保育園、ひので保育園、日の出保育園、藤水保育園、まつさか幼児学園、マリア保育園、みそら保育園、みどり保育園、山室山保育園、ゆたか保育園、ゆめが丘保育所、若葉保育園

◆福祉施設

津市たるみ児童養護施設、エスベランス四日市、みどり自由学園

◆企業

天昇電気工業（株）、中日本フーズ（株）、シャープビジネスコンピュータソフト（株）、百五スタッフサービス（株）、明治安田生命保険（株）、三重トヨタ自動車（株）、木田整形外科、鳥羽シーサイドホテル

◆進学

岐阜女子大、奈良佐保短期大学専攻科、名古屋女子短期大学専攻科、勢京ビジネス専門学校、名古屋コミュニケーションアート専門学校

オフィス情報学科 就職先

◆建設業

船谷建設（株）

◆製造業

おやつカンパニー（株）、（株）東進デ

同窓会の近況

北端 一子

毎日、保育園に来て子どもたちが聞くことがあります。それは「先生、今日の給食は何？」「今日のおやつは何？」の二つです。子どもたちにとって何よりの楽しみようです。給食は、市の栄養士や各保育所の調理員によって考え、作成されます。子どもたちの人気の献立を入れたり、食べた子どもたちの反応を見て、材料を変えたり味付けを工夫したりと毎日、調理員さんがチェックしています。アレルギーの子どもたちには、何によって反応が出るか医師の診断をもらっています。一人一人、

原因が違くと、一人一人、原因の材料を抜いた献立になります。どの子も給食は楽しい、嬉しいと思っしてほしいですね。手作りおやつも楽しみの一つです。もちろん職員も子どもたちと同じように楽しみです。季節の材料を取り入れていただくのでも嬉しいですね。食べた反応は、すぐに給食室へいきます。「また作ってください。」とお願ひに行くのです。調理員さんにとって嬉しいですね。「はい、また、作りますね。」という返事をいただく安心して保育室に戻ります。子どもたちとの生活は、毎日、楽しい事ばかりではありませんが、子どもたちの笑顔に癒されます。

さて、短大部会では、役員が年に四回集まります。最初は、

（株）、中辻医科器械（株）、（株）ホンダカース三重北、東商セントラル（株）、（株）ミヤムラ、（株）木曾路（事務）、スパーサンシ（株）、三重トヨタ自動車（株）、三重ダイハツ販売（株）、三重日産（株）

◆医療・福祉

オーデンタルクリニック、林歯科医院、（社）ルエハイム、子どもの城

◆サービス業

トヨタレンタリース（株）、鳥羽国際ホテル、楽しいパソコン教室、百五リースサービス、（株）ダイム

◆四大等編入

三重大学、三重大学大学院、鈴鹿国際大学、四日市大学、愛知文教大学、名古屋情報メディア専門学校、エステティック・クイーン美麗、国際観光専門学校、日建学院

短大部会をどのように進めていくか、高短祭に出店するバザーについて、話し合います。役員だけでなく理事の方や会員の方たちの協力無しでは進めることが出来ませんので、協力をお願いしています。少しでもバザーが成功するように考えています。今年は9月27日と28日の二日間ですが、同窓会のバザーは27日だけです。高短祭が盛り上がるように、また、バザーも成功しますように会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。同窓会を兼ねて短大へ、足を運んでみませんか？新しい出会いがあるかも。職場で頑張っている皆様の姿を見せてください。楽しみに待っています。

編集後記

多くの方々のご協力によって高田短大通信第42号を発行する運びとなりました。ご一読いただけたらと存じます。今、麻疹が全国的に拡大の兆候を見せています。閉校に踏み切った大学もあり、県内でも発生が確認されています。本学では明るく元気な学生生活を送れるよう保健室を中心にして健康保持・予防の指導に力をいれているところです。今後とも通信の充実に務めますのでご意見等お寄せ願います。